

言葉の旅。スペイン語のバリエーション(7)

中米

私をはじめ中米の国々を訪れたのは30年ほど前で、スペイン語がほとんどわからない大学生のときでした。数人の仲間たちと一緒に車でメキシコ(México)からグアテマラ(Guatemala)、エルサルバドル(El Salvador)のサンサルバドル(San Salvador)、ホンジュラス(Honduras)のテグシガルパ(Tegucigalpa)、ニカラグア(Nicaragua)のマナグア(Managua)、コスタリカ(Costa Rica)のサンホセ(San José)、そして最終地点のパナマ(Panamá)まで足をのばし、帰路は往路のパンアメリカン・ハイウェイ(Carretera Panamericana)を外して、出発点のメキシコにたどり着くまで往復で1か月あまりかかりました。毎日各地を見物しながら、夕暮れ時に町に着くとそこで宿を探したり、宿がなければキャンプをしたりしてのんびりと旅行を楽しみました。今でも地図を広げて通過した都市名を見るとその景観や気候などを懐かしく思い出します。



【写真1】ホンジュラスの首都テグシガルパ

3年前にメキシコで学会があったとき、語彙バリエーションの研究でそれまで未調査だったホンジュラスとエルサルバドルを飛行機で回りました。30年前はとても静かな地方都市のようだったホンジュラスの首都テグシガルパ(Tegucigalpa)は、このとき中心街で大規模な工事が行われ町中が騒音と活気の中にあいました。エルサルバドルのサンホセ(San José)もかつての内戦状態から確実に復旧して、人々の生活の中に明るさが見えました。



【写真2】 pulperia：食料雑貨店（テグシガルパ）

中米はスペイン語方言学でメキシコ・南米間の「移行地域」(área de transición)と呼ばれることがあります。次はネバダ大学のウラジミル・ホンサさん(Vladimir Honsa)の説明です("Coincidencia de tipos dialectales en América Central", *Actas del VI Congreso Internacional de la Asociación de Lingüística y Filología de la América Latina*, México, UNAM, 1988)。

Después del descubrimiento de América Central por Colón en 1502 y la toma

de posesión en 1513 del Océano Pacífico por Balboa, la llegada de la lengua española progresó con rapidez. Centroamérica constituía el cruce de caminos de la conquista y así, la tierra de encuentro de varias formas lingüísticas del español originadas en la época colonial en España o en América. (1502年コロンブスの中米発見と、1513年バルボアの太平洋発見後、スペイン語の到来は急速に進行した。中米は征服の道の交差点となり、また植民地時代のスペインとアメリカ大陸に生まれたスペイン語の様々な語形の出会いの場所となった。)

北のメキシコからは子音が強く母音が弱い高原のスペイン語が、南のパナマからは逆に母音が強く子音が弱いカリブ海のスペイン語が中米各地に伝わり複雑な移行地域を形成しています。またスペインから遠隔の地にあつたため、17世紀の言語変化(vos > tú)が直接伝わりにくく、当時の vos が依然として使用されています。vos がボリビア、チリ、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイでも使われているのは、やはりスペインからのルート(海路・陸路)の遠隔地にあつたためです。



【写真3】エルサルバドル(サンサルバドル)の空港



【写真4】サンサルバドルの市街

言葉を求めて...地名

ホンジュラスの首都 Tegucigalpa は先住民族の言語で「銀の山」という意味です。一方エルサルバドルの首都名 San Salvador はスペイン語で「聖なる救世主，キリスト」で首都の建設が起工された日にちなんだものです。このようにラテンアメリカの国や都市は，先住民族の言語に由来する地名とスペイン語の地名に分類できます。はじめに国の名前を調べてみましょう。

先住民族の言語	スペイン語
Cuba 「中心地」	República Dominicana 「安息日」
México 「アステカの神の名」	Puerto Rico 「豊かな港」
Guatemala 「ワシ（鷲）」	Honduras 「深さ」
Nicaragua 「酋長ニカラオ」	El Salvador 「救世主」
Panamá 「魚の多い場所」	Costa Rica 「豊かな海岸」
Perú 「川」	Colombia 「コロンブスの国」
Chile 「地の果て」	Venezuela 「小さなベニス」

Paraguay 「大きな川」 Uruguay 「曲がりくねった川」	Ecuador 「赤道」 Bolivia 「(シモン) ボリバルの国」 Argentina 「銀の国」
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------

次は首都の名前です。

先住民族の言語	スペイン語
Habana 「ハバナ族」(または女性の名)	Santo Domingo 「安息日」 San Juan 「聖ヨハネ」
Tegucigalpa 「銀の山」	Ciudad de México 「メキシコの都」
Managua 「水の多い土地」	San Salvador 「救世主」
Bogotá 「酋長ボゴタ」(現在は Santafé de Bogotá)	San José 「聖ヨセフ」 La Paz 「平和」
Caracas 「カラカス族」	Asunción 「(聖母の) 昇天」
Quito 「キト族」	Montevideo 「山を見る(ラテン語)」
Lima 「予言する場所」	Santiago 「聖ヤコブ」 Buenos Aires 「よい風」

「スペイン」(España)はフェニキア語で「ウサギ(兎)の多い土地」という意味で、「マドリード」(Madrid)はアラビア語で「わき水」に由来するそうです。このように土地の名前の由来を知ると、往時の様子が見え、興味は尽きません。

スペイン語の語源についてはその意味は明らかなのですが、先住民族の言語に由来する土地名の中には語源が確定できないものもあります。ここでは2冊の地名語源辞典を参考にしました。(牧英夫『世界地名ルーツ辞典』創拓社, 1989. 蟻川明男『新版世界地名語源辞典』古今書院, 1993。)

言葉の広がり...「自動車」

現代の交通機関の中で「飛行機」はスペイン語圏のどこでも avión といい、「列車」は tren, 「船」は barco ですが、「(自動)車」や6月号で取り上げた「バス」は国によって呼び方が異なります。「車」はスペインでは coche (地図では Co) と言いますが、ラテンアメリカでは auto (A)や carro (Ca)が使わ

れます。珍しい言い方としてはキューバの *máquina* (M)とドミニカ共和国の *concho* (Cn)があります。*automóvil* はほぼ全域で使われますが、これは正式な名称で日本語の「自動車」のような感じです。



【地図】「自動車」

【課題-7a】Lipski (1996)の次を読み、中米6カ国のスペイン語の言語特徴をその共通部分と独自の部分に分けて整理しなさい。

- Guatemala: pp. 280-285.
- Honduras: pp. 286-293.
- El Salvador: pp. 272-279.
- Nicaragua: pp. 308-314.
- Costa Rica: pp. 242-250.
- Panama/: pp. 315-323.

【課題-7b】 Lipski (1996: 278)にはエルサルバドルの形態的特徴として、次のような「不定冠詞 + 所有形容詞 + 名詞」の構造が挙げられている。各種の資料やインターネットによってその歴史的・地理的分布を調べなさい。

- una mi amiga.
- Tenía unos sus dos años.

* 参考: Corpus del Español: <http://www.corpusdelespanol.org/>, Google など

【課題 7c】「自動車」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙バリエーションについて調べなさい。

* 参考: Varilex: <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/>